



秋深まるブナ林の散策！－第2回森林教室－

10月21日(土)、一般公募による参加者16名により、第2回森林教室を、西目屋村内の国有林において実施しました。

前日までの降雨により、当初予定していた暗門の滝から、お隣のブナ林散策道にコースは変更となり、この日も時折雨が顔を打つ微妙な天気、皆さん、雨具に身を包んでの山歩きとなりました。しかし、ようやく黄色い色を付けてきた樹々が、雨の苦勞を和らげてくれ、水に打たれる土の匂い、寿命を迎え倒れたブナの巨樹とその根元付近の稚樹たちに森の命のリレーを感じたりしながら、午前の部－トレッキングは無事終了しました。



暗門ブナ林散策道にて



森の命のリレーを説明

午後は、西目屋村の中心地に戻り、ブナコ西目屋工場と白神山地ビジターセンターを見学しました。

ブナコ西目屋工場は旧小学校を使用した工場。ここでは、ブナをスライスして、テープ状にしたものをコイルのように巻き重ねていくユニークな製法で食器など制作しています。職人さんが一つ一つ手作業で作っていく様子に、皆さん興味津々でした。また、併設されたカフェで西目屋産の栗を使



コイルのように巻き重ねる工程を見学中

用したモンブランが絶品でした。

白神山地ビジターセンターでは、数々の展示物を用いて、フィールドで見てきたことを、専門スタッフがより詳しく説明してくださり、私自身も勉強になりました。

当センターが実施する今年度の一般公募の行事は、これですべて終了いたしました。事故等も無く終了することができたのも、ひとえに参加者、関係者の皆様のご協力があったることと、この場を借りてお礼申し上げます。来年度もフィールドで多くの方とお会いできることを心から楽しみにしております。(赤澤)



白神山地ビジターセンター展示ホール
を見学中

木の手触りや匂いなどを感じる親子木工教室を開催

10月7日(土)～8日(日)の2日間で、「世界自然遺産登録30周年記念 第31回白神山地ビジターセンターふれあいデー」が、2日間で約1,600名(主催者発表)の来場者を迎えて開催しました。イベントは、県産品の重さあてゲーム、木登り体験やツキノワグマレザのキーホルダー作り体験など多数の催し物があり、当センターでは、事前に公募して親子木工教室(1日目:6組、2日目:10組)を行いました。



木登り体験の様子



左:ツキノワグマレザのキーホルダー作り
右:木育広場(木のおもちゃ)



県産品の重さあてゲーム

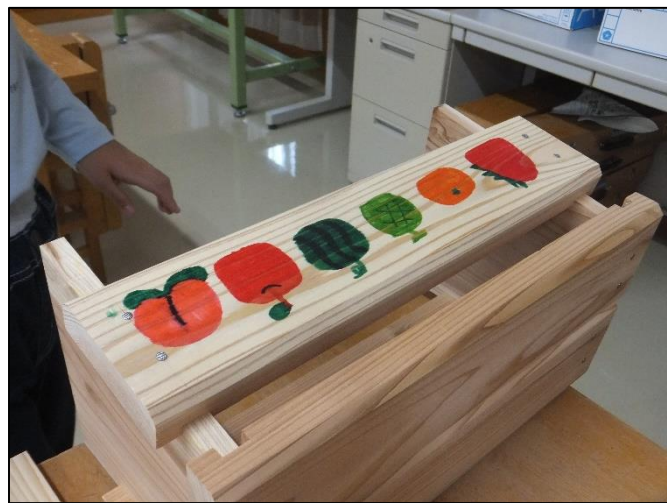
初日は、あいにく雨模様の天候となり来場者の出足も鈍く、寂しいスタートとなりましたが、高木所長から木材の手触りや匂いなど木と触れ合う機会にして、カナヅチや釘の取り扱いには十分注意し、ケガのないよう作業してほしいと挨拶の後、早速工作を開始。工作を始めると熱気が高まりカナヅチの音も勢いよく響き、音につられて見学者もありました。

2日目は、秋晴れに恵まれ多数の来場者があり、各ブースでも順番待ちをする長い列ができるなど大盛況で、木工教室も前日同様に楽しく（一部は厳しく）プランターや椅子を製作し、完成した作品に好きな果物などの絵を描く子供もいて、絵の上手さと発想力には驚かされました。

参加者からは「子供と一緒に木にふれることが熱気あふれる工作風景楽しかった」「クギを打つ事がないので良い経験になった」「このイベントをもっと増やしてほしい」等の声があり、今後も関係機関と連携したイベントにおいて、木の良さを感じて使ってもらえるよう継続して活動していきます。（高木）



慎重にカナヅチで釘を打つ

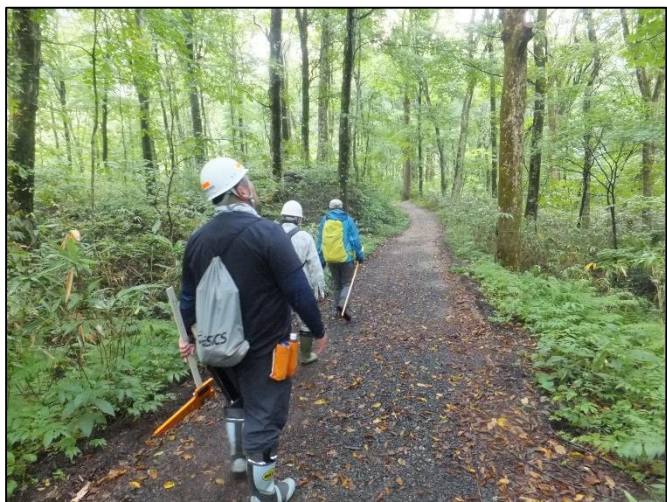


完成後に、好きな果実を色鮮やかに

十二湖遊歩道の危険木調査に参加しました！

10月2日（月）、私たち津軽白神森林生態系保全センター職員2名は、深浦町主催のもと、地元十二湖森の会、青森県、津軽森林管理署とともに、十二湖遊歩道の危険木調査に参加してきました。この調査は観光客やハイカーの皆さんが、楽しく安全に、青池をはじめとした十二湖－白神山地の自然に触れることができるよう、歩道沿いの枯木や危険な枝条などを調査するもので、毎年この時期に実施されています（調査した危険木は深浦町が後日処理します）。

参加者は私たちを含め総勢17名、4班に別れ、それぞれ分担のコースを調査しました。まずは遊歩道を歩きながら、周辺の危険と思われる枯木等を探します。危険木が見



調査エリアへ向かう様子

つかると、右の写真のように太さを測り、高さや木の種類を記録していきます。そして、ナンバーテープとピンクテープを付けて、後日の目印とします。

この一連の作業で一番困ったのは（これは昨年と同じことを言っていますが（汗））、木の種類の判定です。とにかく自然豊かな十二湖のこと、多種多様な樹木が生育しているのと、それが枯れて葉が落ちてしまっているのとで、本当に判定が難しかったです。そういう迷った時は、班員みんなで頭を突き合わせて相談し、最後はエイ、ヤッと決断していくのですが（笑）。

この日は時折雨の降る、あいにくの天気でしたが、煙雲に覆われた山々の趣を感じながら、上記のように同じ班の皆さんと協力して行う作業は、とても楽しいものでした。私たち津軽白神森林生態系保全センターは、今後も関係機関の皆さんと手を携えて、十二湖―白神山地を訪れる方たちが、安全に楽しく森林に親しんでいただけるよう努めていきます。（赤澤）



木の太さを計測している様子

ツキノワグマ出没の報道に接して

今年は春から各地でクマの出没とその被害の報道が流れ、秋になってからはさらにその頻度が高くなっています。

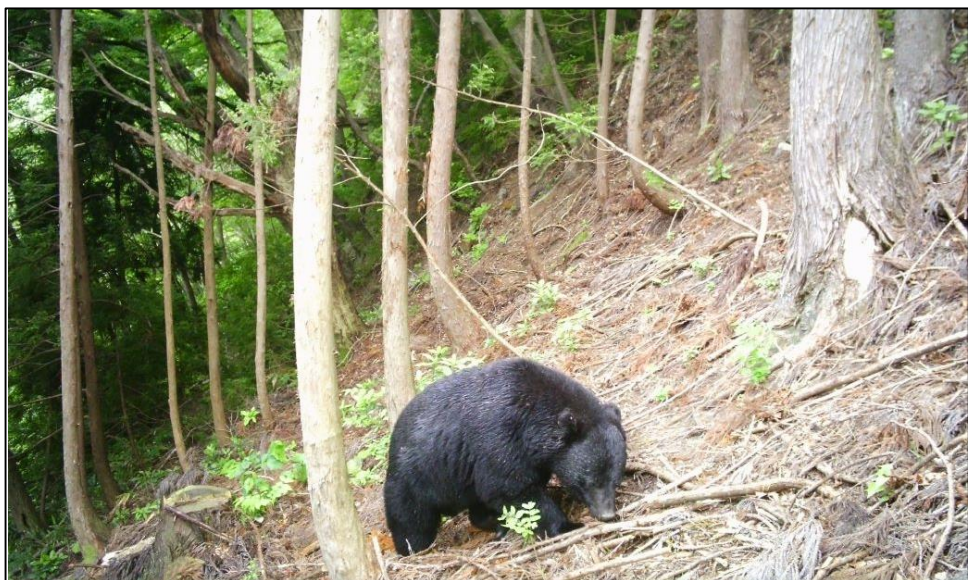
私も既に4回ツキノワグマと出会いました。これは例年にないことです。

どうして今年はこれほど多いのでしょうか。

ニュースでも報じられている、クマの主食であるドングリ類の影響の大きさは、山を歩いていて実感します。昨年の秋は、ブナ林を歩いていて、ブナの実を踏まずに歩くのが困難なほど豊作でしたが、今年はそれがまったく見られないのですから（誇張でなく本当に「まったく」です）。

クマの立場に立てば、冬眠を控え、餌を求めて人里まで降りてこざるを得ないのですが、私たち人間にとっては、とても由々しい状況です。クマが冬眠に入る12月まで、もうしばらくの間一層の用心が必要です。

（赤澤）



ツキノワグマ（令和5年5月深浦町内にて撮影）